

データ利活用にむけた取組みについて

第7回 営業秘密の保護・活用に関する小委員会

平成29年1月31日

SOMPOホールディングス株式会社 中林 紀彦様



SOMPO Digital Lab

グループデータ活用のための “SOMPOデータ・プラットフォーム”

SOMPOホールディングス株式会社
チーフ・データサイエンティスト
中林 紀彦



SOMPO Digital Lab

SOMPOデジタル・プラットフォーム ～ スピードと柔軟性 ～



SOMPO
ホールディングス

Silicon Valleyスタートアップのスピードと柔軟性

SOMPO Digital Labの誕生

相互連携

CDO (Chief Digital Officer)

シリコンバレーでの豊富な
経験を持つ人材を招聘

シニアアドバイザー

ビッグデータの世界的権威である
トーマス・H・ダベンポート氏が就任

新しい
ビジネス
モデル

デジタルネイティブ向けマーケティング

デジタル活用の新商品・サービス開発など

ビジネスモデル の進化

新たな事業領域の創造など

顧客接点の変革

スマホアプリ（ポータブルスマイリングロード）
ウェアラブル端末（Fitbit社）の活用など、

既存事業

業務効率化の進展

コールセンター等で人工知能（AI）導入等

デジタル戦略部（東京）

SOMPO デジタルラボ
シリコンバレー

SOMPO Digital Lab Silicon Valley



2016年～2020年

SOMPO Digital Lab Tokyo



"データ分析の高度化"が競争力の源泉になる

データ活用能力

レベル3

個々の顧客や状況を対象として、**理解と施策を直結**して実施できる

6ヶ月後に生活習慣病予備軍になる可能性が80%のため、生活習慣改善のメニューを自動作成し松重さんのスマホアプリに定期的送信」

ひとりひとりという究極のドリルダウンができている状態。One to Oneの世界。

レベル2

施策を行う上での、**水準しきい値**を決められる

「あなたと同世代の男性の平均値と比べて、10Kg太っている。体脂肪率も15%多い」

基本的な統計量（平均値、最小値、最大値など）を算出し、統計学的に正しい手続きで確認が行われ、共有されている状態。

レベル1

現状を理解できる

「先月のトレーニング実績は？ 体組成計による体重や体脂肪、3サイズの測定結果は？」

定型的な集計表で定期的に出力される状態。

SOMPOデジタル・プラットフォーム構想

最先端のプラットフォームで、世界に伍していく

データ
サイエンティスト
サービス (API)

- データの種類（自然言語、画像）・分析対象（健康、移動）に精通した**精鋭部隊**を編成
- **あらゆるインターフェースやデバイスで利用可能**なもので、サービス間の連携も容易

アルゴリズム (AI)

- **未来予測に関するAIに特化**し、効率化に関する部分は外部の汎用的なものを活用

データカタログ

- 社内外の利用可能なデータをカタログ化した**巨大な仮想データベース**を構築

データソース

- 社内のみならず、他企業とのアライアンス、オープンデータまでを網羅したデータセットを用意し**価値あるデータを囲い込む**

保険の先へ、挑む

保険の枠を超えた新たなサービスビジネスへの進化を目指します

- 意味のある知見を引き出し
下りの**サービス**に軸足を移す
- デバイスの売り切りモデルから
サブスクリプション・モデルへ
- **プラットフォーム**を**連携・共有**
することによりサービスを拡大





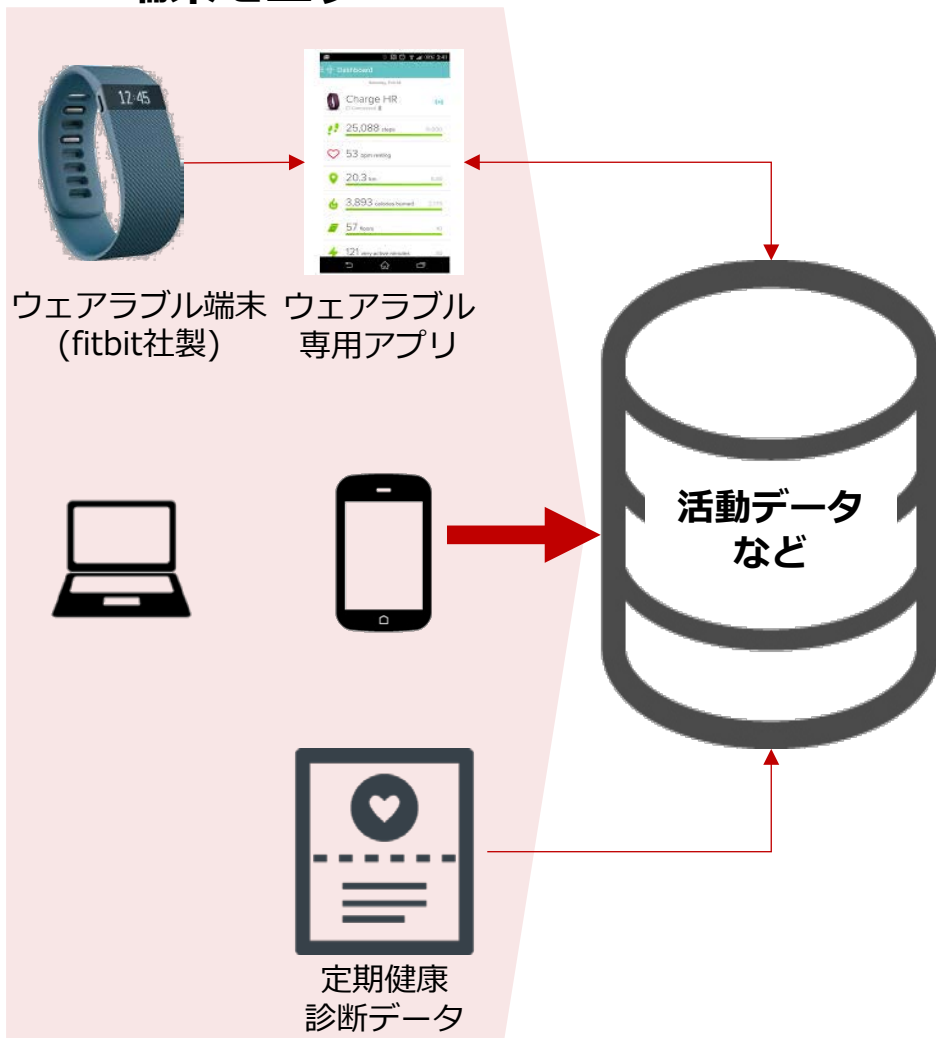
デジタルヘルス 2.0



損保ジャパン日本興亜
ひまわり生命

ウェアラブル デバイスを活用した取り組み

端末モニター

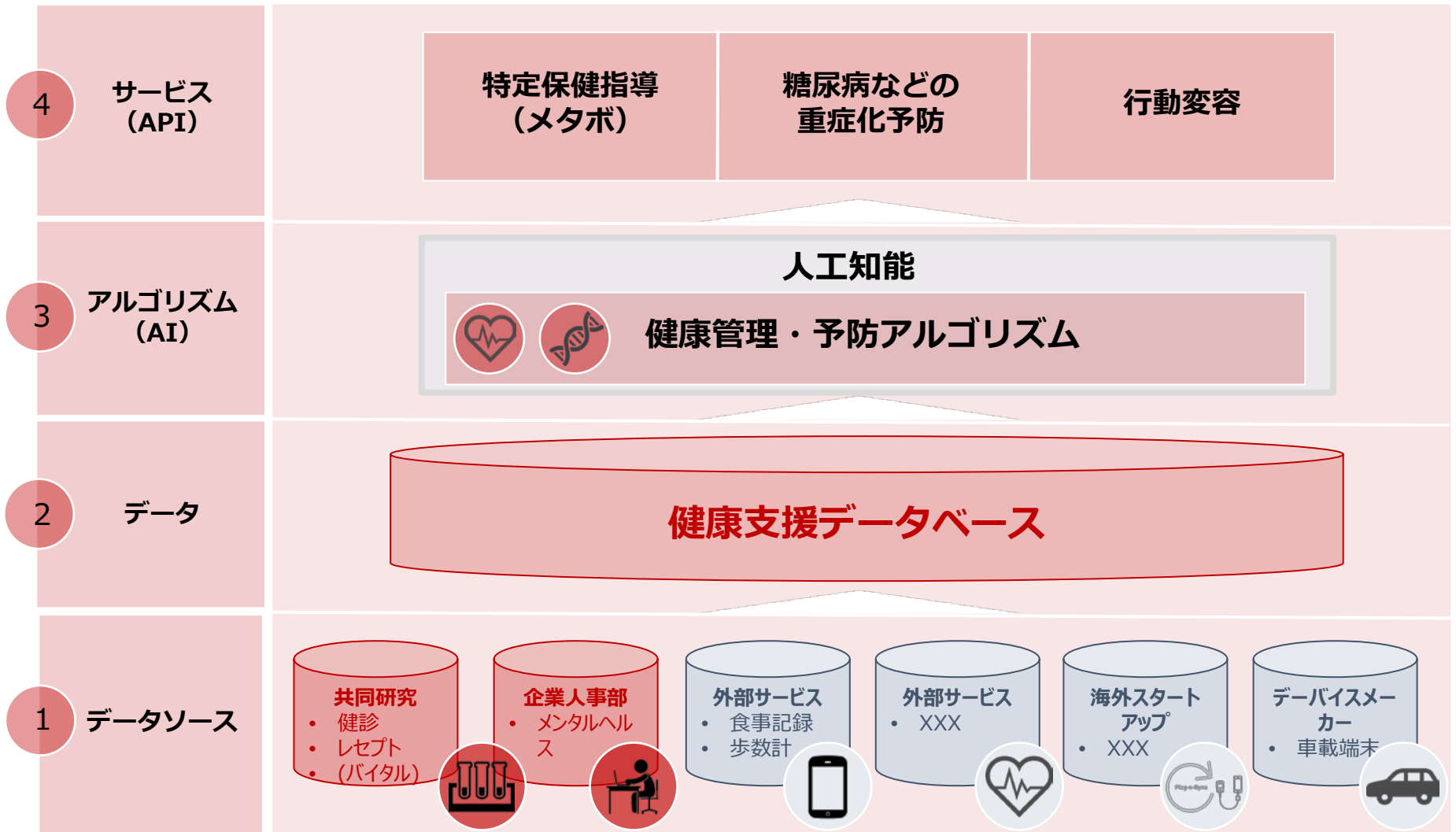


1 約3,000人の社員の健康増進を後押しするために、ウェアラブル端末を配布

2 健康情報とウェアラブル端末を通じて収集されるデータをもとに**疾病と活動の相関関係**を分析

3 保険契約者さまにウェアラブル端末を活用して**お客さまの健康増進を後押し**

外部のサービスと連携し、データ分析を高度化することにより
競争力のあるサービスを提供することを目指す



- アルゴリズムやモデルに関する特許
 - 普通のDeep Learningを使っただけの特許などの出現
- 複数データソースを組み合わせた利用
 - データを組み合わせる際の権利とトラッキング
- 知的財産に関する教育
 - AIに関する知的財産の面でも産業を強くする